

2009 年 4 月 8 日

早稲田大学アジア太平洋研究科

松岡研究室

池田れい

中国における持続可能な発展と日本の環境協力

北京研修報告書

1. 研修期間

2009 年 2 月 19 日（木）～2 月 24 日（火）

2. 目的

近年世界では環境破壊が大きな問題となっている。中でも中国を代表とする東アジア地域ではその急激な経済発展に伴い、大気汚染・水質汚濁など様々な環境問題が生じている。環境問題には一国の限定された地域におけるものから地球規模のものまで様々であり、各国、また各地域の国々が協力して対策を行ってはいるが、汚染が広がっている現状を考慮すると対策はまだ十分とは言えない。私達は中国における様々な環境問題の現状・対策や課題と日中間の二国間環境協力の現状などについてより深く理解することを目的とし、北京の環境 NGO や JICA を訪問した。また北京大学・北京師範大学との共同セミナーを開き現地学生とのディスカッションを通して様々な意見を交換した。これらのセミナーは現地学生との交流・違う立場からの意見を聞き今後の研究に役立てることは勿論のこと、事前準備において早稲田生の研究・プレゼン能力を高めることをも目的とした。またこれらのセミナーは学生主導のものであった為、様々な国籍の学生が協力して1つのことを作り上げるという機会にもなった。

これら様々な目的や機会を達成するため、大学院 GP プログラムに基き北京に5泊6日の日程で滞在しフィールドリサーチを行った。

3. 現地スケジュール

北京到着	2 月 19 日 (木)
北京師範大学との共同セミナー (9 : 30－14 : 25) 環境と開発機構訪問 (15 : 30－16 : 30)	2 月 20 日 (金)
北京水道博物館見学 (10 : 00－11 : 45) 北京大学との共同セミナー (14 : 00－16 : 30)	2 月 21 日 (土)
自然の友訪問 (10 : 30－11 : 45) JICA 中国駐在事務所訪問 (13 : 30－15 : 10) 精華大学張先生のプレゼンテーションを 拝聴 (16 : 00－17 : 00)	2 月 23 日 (月)
帰国	2 月 24 日 (火)

訪問した各組織の住所・担当者名

- 1) Professor Tao Zhuan Jin, Beijing Normal University
北京师范大学
Address : Beijing, ShinJieKouWaiDaJie, 19 Hao

北京市新街口外大街 19 号
- 2) Mr. Chen Ji Liang/IED Officer; <http://www.ied.org.cn/>
Address: Hong Tai Property, #19 Min Wang Yuan, Dong Cheng District Beijing
环境与发展研究所
北京市东城区民旺园 19 号院鸿泰商务楼 (010)5131-9200 (010)6427-5604
- 3) Professor Zhang Shiqiu; Peking University; Director of Institute of
Environment and Economy (IoEE)
Address: Beijing, HaiDingQu, YiHeYuanLu 5

北京大学
北京市海淀区颐和园路 5 号

- 4) Mr. Zhuang Boju/FON Researcher; <http://www.fon.org.cn/channal.php?cid=74>
Adress:Room 368, Wanbo BLD, Adress:Ganyu Hutong 53,Dongcheng District,
Beijing 100006
TEL: 86-10-6523 2040ext804 M: 86-138 1001 4466
北京市东城区甘雨胡同 53 号 万博写字楼 368 室
- 5) Ms. Uemura; JICA PekingOffice
<http://www.jica.go.jp/china/english/office.html>
Adress:Beijing,ChaoYangQU,DongSanHuanBeiLu5Hao,BeijingFazhanDaSha
400 Hao
北京市 朝陽区 東三環北路 5 号 北京發展大廈 4 0 0 号
TEL:86-10-6590-9250

4. 参加者

修士 1 年 7 名、修士 2 年 3 名、博士 1 年 1 名の学生 1 1 名+引率 松岡俊二教授の計 1 2 名

	学生参加者氏名	学年	係
1	池田れい	M1	プロジェクトリーダー
2	夏揚	M1	現地宿泊等手配
3	Ziyi Qin	M1	通訳
4	管淑敏	M1	お土産等手配
5	Halldor Elis Olafsson	M1	北京大学での MC
6	Kanok Phuaknuem	M1	北京師範大学での MC
7	Warren David Pohl	M1	航空券手配
8	張麗	M2	プレゼンテーション
9	Ragnheidur Reynisdottir	M2	プレゼンテーション
10	Han Joo Lee	M2	プレゼンテーション
11	Alice Park Lee	D1	プレゼンテーション

5. 北京師範大学での共同セミナー

タイムテーブル:

開始時刻	終了時刻	事柄
9 : 30	9 : 40	MC によるオープニング
9 : 40	9 : 50	TAO Chuan Jin 教授・松岡俊二両教授によるはじめの言葉
9 : 50	10 : 05	General Budget Support and the Paris Declaration -REYNISDOTTIR Ragnheidur(Waseda)-
10 : 05	10 : 20	Assistant material for presentation: A try to resolve ecological crisis -SUN Xiaopeng(BNU)-
10 : 20	10 : 30	休憩
10 : 30	10 : 45	Evaluation of China and Japan's Environmental Cooperation -IKEDA Rei(Waseda)-
10 : 45	11 : 10	各教授によるコメント
11 : 10	11 : 30	学生によるディスカッション
11 : 30	13 : 30	昼休憩
13 : 30	13 : 45	Introduction of my work experience in ENGO and the research plans in the future -Christiana.Lawson(BNU)-
13 : 45	14 : 00	Governance Structure for Addressing Chinese Environment Problems with a Focus on the Role of NGO -LEE Han Joo (waseda)-
14 : 00	14 : 15	教授によるコメント
14 : 15	14 : 30	学生によるディスカッション
14 : 30	14 : 45	MC と各教授による終わりの言葉

北京師範大学では北京師範大学・早稲田大学の両学生、環境 NGO 職員計約 25 名が参加した。セミナーは学生主導の形で行われ、各々両大学より司会を 1 名ずつ出した。早稲田大学の司会は Kanok Phuaknuem。プレゼンテーションのテーマは下記の通りで、計 5 名による各 15 分間のプレゼンテーションが行われた。

1:General Budget Support and the Paris Declaration

-REYNISDOTTIR Ragnheidur(Waseda)-

2: Assistant material for presentation: A try to resolve ecological crisis

-SUN Xiaopeng(BNU)-

3: Evaluation of China and Japan's Environmental Cooperation

-IKEDA Rei(Waseda)-

4: Introduction of my work experience in ENGO and the research plans in the future

-Christiana.Lawson(BNU)-

5: Governance Structure for Addressing Chinese Environment Problems with a Focus
on the Role of NGO

-LEE Han Joo (waseda)-

内容は以下の通り。

1. ベトナムとタンザニアの General Budget Support について
2. エコグッズの概念とエコマーケットの重要性・将来への展望などについて、
3. 日中間の環境協力プロジェクトの評価と新規の円借款採用がなくなった今後の環境協力の形について
4. 環境 NGO での仕事の経験の紹介、ENGO についての議論
5. 中国での社会能力開発アプローチにおける課題について

プレゼンテーションの合間の昼休みには学内を見学するなど学生同士の交流もあり、和やかな一時を過ごした。プレゼンテーション後の参加者によるディスカッションでは、日本企業の海外進出による環境汚染についての考え方や、環境 NGO である「自然の友」職員が持続的な発展な立場からの考え方、また社会公益研究の立場からの考えなど意見を交換した。

6. 環境 NGO（環境と開発機構、自然の友）訪問

中国の環境 NGO 団体「環境と開発機構」・「自然の友」を訪れ、その活動や中国における NGO の役割や立場などの話を伺った。中国における環境 NGO は 1994 年に初めて設立されその活動の歴史は 15 年と浅い。しかし特に北京においては 2008 年に北京オリンピックが開催された際に国と環境 NGO が協力したことで市民の環境意識は高まり、環境 NGO はこの環境意識の改善について貢献したと言えよう。このことから分かるように環境 NGO の役割は徐々に大きくなってきており、今後の益々の活動が期待される。現在の主な活動は環境教育・環境を考慮したモデル学校の設立・貧困削減など様々な草の根運動を行っている。日本との環境協力については、日本の NGO と中国の NGO の協力がまだ薄いので、今後関係強化が望まれるとの意見もあった。

7.北京市水道博物館見学

北京市水道博物館は2000年に設立された。この博物館は、1908年に作られた北京初の水道場の旧跡を利用して建設されている。博物館内は3つの部分に分かれており、創業当時部分・建国後の部分・現代の部分と100年の歴史を追って北京の上水道事業の発展の様子を見学することが出来た。以前は手作業での労働により管理がされていたが、最近ではコンピューターや音、光、電気などの技術を駆使し科学技術によるものを中心として管理が成されている。この博物館の見学を通し、水道から出てきた水はただ出来たものではなく、貴重な水資源であると共に人々の労働から作り上げたものであるということがよく分かった。

8.北京大学での共同セミナー

タイムテーブル:

開始時刻	終了時刻	事柄
14:00	14:10	MCによるオープニング
14:10	14:20	ZHANG Shing 教授・松岡俊二教授によるはじめの言葉
14:20	14:35	Evaluation of Global Warming Policy -ZHANG Li(Waseda)-
14:35	14:50	Cost-Effectiveness Analysis of Near Ground Ozone Pollution Control in Beijing and Surrounding Areas-XIE XuXuan(Peking)-
14:50	15:05	教授によるコメント
15:05	15:20	学生によるディスカッション
15:20	15:35	Implementation of International Environmental Convention -Northwest Pacific Action Plan -LEE Alice Park(Waseda)-
15:35	15:50	Economic analysis of Mercury Control for power plants in China -(Peking)-
15:50	16:05	教授によるコメント
16:05	16:20	学生によるディスカッション
16:20	16:30	MC・各教授による終わりの言葉

北京大学では両学生約20名が参加しプレゼンテーションが行われた。学生主導の形で行われ、両大学より各1名ずつMCを出した。早稲田側のMCはHalldor Elis Olafsson。プレゼンテーションのテーマは下記の通りで、計4名による各15分間のプレゼンテーション

ンが行われた。

1.Evaluation of Global Warming Policy

-ZHANG Li(Waseda)-

2.Cost-Effectiveness Analysis of Near Ground Ozone Pollution Control in Beijing and Surrounding Areas

-XIE XuXuan(Peking)-

3.Implementation of International Environmental Convention –Northwest Pacific Action Plan

-LEE Alice Park(Waseda)-

4.Economic analysis of Mercury Control for power plants in China

- WU Dan-(Peking)-

内容は以下の通り。

1.DAC5 基準に基いた日本の地球温暖化の政策評価

2.コストベネフィットで分析された北京地域におけるオゾン汚染規制の評価

3.国際環境会議がどの様に実行・履行されているかをケーススタディーでみる

4.中国の発電所における水銀コントロールの一番効率的な方法の模索

プレゼンテーションの後には北京大学側が夕食会を開いてくれ、学内のレストランで食事を楽しんだ。



北京大学の ZHANG Shing 教授・学生達と：北京大学にて（2009 年 2 月 21 日）

8. JICA 中国駐在事務所訪問

JICA とは the Japan International Cooperation Agency(独立行政法人国際協力機構)の略であり、日本の公的援助を行っている機関である。中国との関係としては1963年(旧JBIC)よりインフラ整備・人材育成・環境対策など様々な事業を通して現在に至るまで中国へ支援を行っている。中国の環境問題としては、例えば黄砂や砂漠化、水質汚濁などが挙げられるが、これらの環境問題の現状とそれらの問題に JICA がどのような形で関わってきたかなどを JICA 中華人民共和国事務所の職員である大久保晶光さんなどより伺った。今まで中国に対する環境協力は ODA ローンを中心に資金援助の形で行われてきたが、2007年以降の新規 ODA ローンの中止に伴い今後は人材派遣などの技術協力を強化していくこと、また内陸地へのより一層の環境支援が必要であることなどが分かった。

9. 清華大学

環境科学と工程系で Miao Chang 教授と Kunmin Zhang 教授と挨拶をし、Zhang 教授による

「Low-carbon Economy & Energy Efficiency」というテーマでのプレゼンテーションを拝聴した。内容は中国における環境技術開発の現状についてであり、中国は京都議定書での二酸化炭素削減義務はないが、低炭素社会に向けての技術開発の推進・環境モデル都市を作るなど努力を行っているということが分かった。京都議定書での二酸化炭素削減義務のない中国の、二酸化炭素削減へ向けた国際社会における役割についての質問などが出された。



Kunmin Zhang 教授のプレゼンテーションの様子：清華大学にて（2009年2月23日）

10. 今後の予定

未定であるが、これを機会に定期的に共同セミナーなどを開催することになれば今後の交流にも繋がるのではないだろうか。

11. 収集資料

- ・張 坤民, 潘 家华, 崔 大鵬 編、(2008)「低炭素経済論 『INTRODUCTION TO LOW CARBON ECONOMY』」、中国環境科学出版社

- [日]吉田文和著
温宗国訳、張 坤民校正、(2008)、「日本の循環経済」 The Cyclical Economy of Japan、
2008 年 10 月、中国環境科学出版社
- 自然之友編 楊 東平/主編、(2008)、「中国環境の危機と転機 (2008)」 「CRISIS AND
TURNING OF CHINA'S ENVIRONMENT (2008)」、2008 年 3 月、社会科学文献出版社
social sciences academic press (China)
- 張 坤民 著、(2004)「中国可持續發展的政策与行動 GUANYU ZHONGGUO KECHIXU
FAZHAN DE ZHENGCE YU XINGDONG」、中国環境科学出版社（北京）
- 環境保護部自然生態保護司 編、(2008)、「生態省建設理論と実践 SHENGTAISHENG
JIANSHE LILUN YU SHIJIAN」、中国環境科学出版社（北京）
- 環境緑皮書 2006 年転型与博弈
HUANJING LU PI SHU 2006 NIAN ZHONGGUO HUANJING DE ZHUANXING YU BOYI
- 独立行政法人日本国際協力機構 (JICA) 原著：日本技術協力調整専門家 岡国定 改定：
中国技術協力アドバイザー専門家 難波 緑、(2007)、「日本の技術協力をという利用す
るか—JICA ルート技術協力活用の手引き」
- 環境与友展研究所編、(2005)「未来可能源可再生源」、知識出版社



北京市水道博物館にて（2009年2月21日）